

住宅用火災警報器 まるくん

取扱説明書 保証書付 保管用

国家検定合格品

煙式

熱式

〔適用機種〕

FSKJ226-M

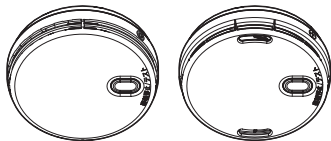
親器 (煙式)

FSKJ226-C(-J)

子器 (煙式)

FSLJ016-C

子器 (熱式)



ワイヤレス連動

音声警報

自動試験機能付

電池式(10年※タイプ)

※使用温度や電波環境などの外部環境や使用条件によって短くなることがあります。

ご購入上げ、ありがとうございます。

ご使用前に必ず取扱説明書をお読みいただき、大切に保管してください。



警報器は10年で交換
10年を超えて使用すると、汚れなどの影響により火災の感知が遅れる場合があります。
設置から10年経過後は、すみやかに新しい警報器と交換してください。

お客様ご相談窓口



0570-091-333 (受付時間: 24時間・365日)

一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
ただし、PHS・その他一部の電話機からはご利用いただけません。

保証書

型式 FSKJ226-M
FSKJ226-C(-J)
FSLJ016-C

保証期間 お買い上げ日から1年間

お買い上げ日 年 月 日

お客様

ご住所

お名前

電話

販売店

住所・店名

電話

保証規定

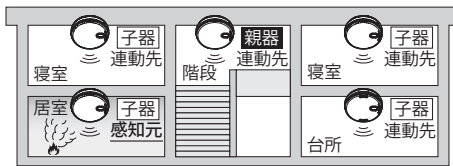
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
- 取扱説明書に記載している注意に従った正常なご使用状態において、保証期間内に故障した場合は、無償交換させていただきます。
(イ) 無償交換のご依頼は、お買い上げの販売店にお申しつけください。
(ロ) お買い上げの販売店にご依頼できない場合には、「お客様ご相談窓口」にご相談ください。
(ハ) この商品は持込修理(交換)の対象商品です。郵送などで修理(交換)依頼された場合の送料などは、お客様の負担となります。
- 保証期間内においても、次のような場合には有償とさせていただきます。
(イ) 取扱上および使用上の誤りによる故障および損傷
(ロ) 不当な改造や修理による故障および損傷
(ハ) お買い上げ後の輸送、移動、衝撃、落下などによる故障および損傷
(ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変および公害、塩害、ガス害や異常電波および電磁波などによる故障および損傷
(ホ) 車両、船舶などに搭載して使用された場合に生じた故障および損傷
(ヘ) 業務用など一般家庭用以外に使用されて生じた故障および損傷
(ト) 油污れなどによる機器の機能劣化
(チ) 取付場所が不適切で、調理の煙や熱・湯気・油煙・ストーブの熱など、住戸環境による警報により電池が消耗した場合
(リ) 本書のご提示がない場合
(ヌ) 本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
(ル) 出張サービスをご要望された場合の出張に要する費用
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
(This warranty is valid only in Japan.)
- 本保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

○お客様にご記入いただいた個人情報は、保証期間内の無償交換対応のほか、アフターサービスおよび各種サービスに関する連絡ならびにお客様個人が特定されない形での統計上の目的のために使用させていただく場合がございますのであらかじめご了承ください。

○保証期間経過後の補修用性能部品(専用リチウム電池など)の保有期間および購入については、お買い上げの販売店または「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

ご使用前に

- 本警報器は、住宅用の火災警報器です。「自動火災報知設備」および「特定小規模施設用自動火災報知設備」には代用できません。
- 本警報器は、電波法で定める技術基準に合格した技術基準適合品です。
- 設置した警報器が煙または熱を感知すると、登録したすべての警報器が連動鳴動して火災をお知らせします。



- 連動台数は、親器1台と子器最大15台です。連動には親器が必要です。子器を増設する場合は、親器との登録が必要です。
- 以下の製品と連動できます。
 - ・無線式連動型住宅用火災警報器(煙式/熱式)
 - FSKJ226/FSLJ016 シリーズ FSKJ223/FSLJ013 シリーズ
 - FSKJ218(A)/FSLJ008(A) シリーズ
- 非連動型(単独型)警報器および他社製品との連動はできません。
- 本警報器は、火災で発生する煙または熱を感知して警報する住宅用火災警報器で、消火装置や火災を防止する機器ではありません。火災などによる損害、および本書に従わず設置された場合の事故や故障については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 商品を正しく安全にお使いいただくため、さまざまな注意事項を記載しています。以下の注意事項をよく理解してから本文をお読みください。

| | |
|--|---|
| <p>警告 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負うか、警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。</p> | |
| <p>注意</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 以下のような場合は警報に気づかないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・薬の服用後または飲酒後に就寝した場合 ・交通、ステレオ、ラジオ、エアコンなどの騒音が大きい場合 ● 以下のような火災では作動しないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・火のまわりの早い火災 ・煙または熱が発生しない火災 ・ガス漏れや薬品による爆発的な火災 |
| <p>分解禁止</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 分解・改造の禁止 本警報器は電波法で定められた無線設備の技術基準適合品です。 ⓐが表示された機器は総務大臣の許可なしに改造して使用することはできません。 ⓑ改造すると法律により罰せられることがあります。 |
| <p>禁止</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 落下などにより衝撃を与えた警報器は使用しない。 針金などの異物を混入しない。 正常に作動しないおそれがあります。 ● 電池切れ・機器異常・電波異常の警報器は使用しない。 火災時に作動しないおそれがあります。 ● テストのとき、ライターなどの炎を使用しない。 故障の原因となるばかりでなく、火災の原因になります。 |
| <p>必ず守る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 煙流入口、熱流入口をテープなどでふさがない。 火災を感知できません。 ● 取付ネジや専用リチウム電池の取り扱いは、乳幼児や子供の手の届かない場所で行う。 誤飲またはケガのおそれがあります。 ● 高所の操作および作業は、安定した台に乗って行う。 転倒してケガをするおそれがあります。 |
| <p>注意 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が傷害を負うか、物的損害が発生する危険な状態が生じる可能性がある場合、または警報機能の一部に悪影響を及ぼす可能性がある場合。</p> | |
| <p>注意</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 煙流入口、熱流入口を強く持たない。 破損するおそれがあります。 ● ペンキなどで塗装をしない。 機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。 |
| <p>禁止</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 殺虫剤や化粧スプレー、タバコなどの煙を直接かけない。 ストーブの近くなど高温環境になる場所に取り付けけない。 誤作動の原因および性能に悪影響を及ぼすおそれがあります。 ● 耳を近づけて警報音を聞かない。 聴力障害などの原因となるおそれがあります。 ● ぬれた手で電池コネクタを接続しない。 感電するおそれがあります。 ● 熱感知部に触れない。 故障して火災を感知できなくなるおそれがあります。 |
| <p>必ず守る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 警報器の移設や家具などの移動後は必ず点検をする。 電波状態が変化し、連動できない場合があります。 |

無線通信に関するご注意

本警報器は、電波法に基づく小電力セキュリティシステムの無線局として認証を受けています。以下の注意事項をよくお読みになり、設置してください。

- 本警報器は、日本の電波法にのみ準じております。外国では使用できません。
- 警報器の送信電波が、人工呼吸器や心臓ペースメーカーなどの医用機器に影響を与える可能性は極めて少ないですが、動作に影響を及ぼすおそれがあります。各種医用機器と親器および子器とは22cm以上離してください。
- 親器と子器間の電波到達距離は、障害物のない場所で水平距離100m程度です。以下の条件により到達距離が短くなったり、電波障害が生じたりするおそれがあるためご注意ください。
 - ・ 警報器間に電波の障害となる要因(金属製のラック、鉄筋コンクリートなどの壁)がある。
 - ・ 警報器の付近で携帯電話、スマートフォン、コードレス電話などを使用している。
 - ・ 近くに電子レンジなど電磁波を発生する家電品がある。
 - ・ 近くにテレビやラジオの送信所、無線局などの施設がある。
 - ・ 警報器の付近でマイクロ波治療器などの医療機器を使用している。
 - ・ 人の移動により電波が遮られた場合。
- 警報器間の設置環境が変化すると、電波の到達レベルも変化し、電波異常や電池切れが発生する可能性があります。

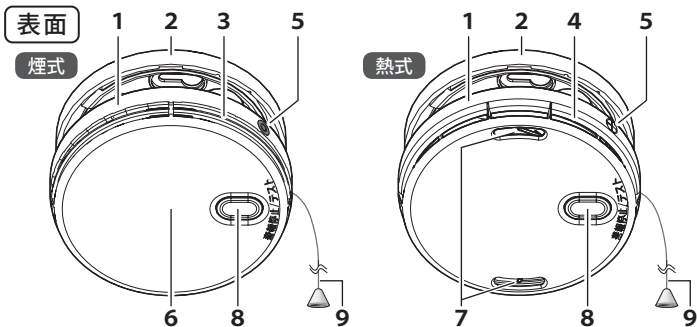
【電波の飛びかた】

電波には直線的に届く直接波と、壁や天井や床などの障害物などに反射して届く反射波があります。実際には直接波と反射波の関係により電波が強まったり弱まったりするポイントがあります。警報器を設置する際は、取り付ける前に位置を、電波状態を確認することが必要です。(3.1 電波状態の確認(仮設置) を参照)

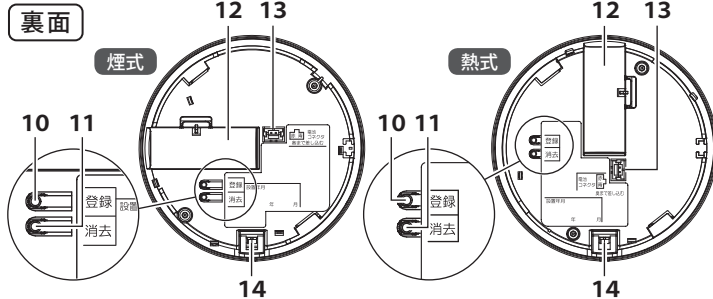
1 商品のご確認(各部の名称とはたらき)

以下の商品内容物が揃っていることを確認してください。

| | | |
|-----------------------|--------------------------------------|----------------------------|
| ● 本体+取付ベース (警報器) | ● 専用リチウム電池 (公称電圧 DC3V) | ● 取付ネジ |
| 煙式 または 熱式 | | ②どちらか一方を使用してください。 |
| | ③・保護フィルムをはがさないでください。 ・市販品ではありません。 | ● 一般用 (25mm) |
| ● 登録番号表示シール (親器のみ) | ● 取扱説明書 (保証書付)(本書) | ● 工事店様用 (41mm) |
| | | ※工事店様は内部の補強材に合わせて使用してください。 |
| | ● かんたん登録・設置ガイド | |



| | |
|---------------------|--|
| 1 本体(警報器) | — |
| 2 取付ベース | 警報器を固定します。 |
| 3 煙流入口兼音響孔 | ここから煙が流入します。また警報音が鳴ります。 |
| 4 熱流入口兼音響孔 | ここから熱が流入します。また警報音が鳴ります。 |
| 5 登録番号 | 親器の場合: ① が印字されています。 子器の場合: 登録番号表示シールの貼付位置。 ② が印字されています。 |
| 6 煙感知部(内部) | 流入した煙を感知します。 |
| 7 熱感知部(サーミスタ) | 流入した熱を感知します。 |
| 8 『警報停止/テスト』ボタン兼表示灯 | 警報音の停止、または定期点検で使用します。警報時や設定時の状態に応じて赤・橙・緑が点滅または点灯します。(通常時は消灯) |
| 9 引きひも | 引くことで『警報停止/テスト』ボタンと同じ操作ができます。付属品ではありません。引きひもが必要な場合は、推奨するひもを別途ご用意ください。 (推奨ひも:市販の照明用スイッチひもなど。) 太さφ0.7~1.0mm程度 引きひもの取り付け方法は、3.1 電波状態の確認(仮設置)の引きひもの取り付けを参照してください。 |



| | |
|---------------|---------------------------|
| 10 『登録』ボタン | 無線チャンネル設定時やグループ登録時に使用します。 |
| 11 『消去』ボタン | 登録情報を消去するときに使用します。 |
| 12 電池収納部 | 専用リチウム電池を収納します。 |
| 13 電池用コネクタ | 専用リチウム電池のコネクタを接続します。 |
| 14 引きひも取付用フック | 引きひもを引っ掛けるフックです。 |

2 登録・消去

警報器を連動させて使用するには、警報器を同一グループに構成する登録作業が必要です。

- 登録とは
親器・子器に対し、それぞれが持つID(固有識別番号)を認識させる操作のことです。
- グループとは
相互に連動させることができる警報器の集まりです。1つのグループには親器1台に対し子器を最大15台登録できます。○:同一グループのため連動可能
×:未登録または別グループのため連動不可
- 連動とは
ある警報器が火災警報を発したときに、その信号を受信した他の警報器が、火災警報を発する動作のことです。
- 消去とは
親器・子器それぞれに登録した情報を消去する操作のことです。設置した子器を交換または撤去する場合は、取りはずす子器の情報を親器から消去する必要があります。

2.1 基本的な登録・消去

① 電池の取り付け

1. 本体を持って、取付ベースを指または手のひらで押さえながら左に回し、取りはずします。

| | |
|--|---|
| | 熱感知部に触れない。故障して火災を感知できなくなるおそれがあります。 |
| | ● 煙流入口、熱流入口を強く持つてはならない。破損するおそれがあります。 ● 取付ベースの丸孔に指を入れて取付ベースを取りはずすとき、指を挟まないよう注意する。 |

2. 本体裏面に、油性ペンで設置年月を記入します。
3. 電池コネクタの突起と本体側電池用コネクタの溝を合わせて、接続します。

必ず守る 専用リチウム電池のコネクタは奥までしっかりと差し込み、確実に接続する。コネクタ接続が不十分な場合、発熱や正常に動作しないおそれがあります。

電池を収納する前にコネクタを接続する。

③ 保護フィルムをはがさないでください。

油性ペンで設置年月を記入する。
記入例) 設置年月 '19年4月

4. 電池収納部に専用リチウム電池を収めます。
電線を専用リチウム電池と収納部の間に挟まないでください。本体が取付ベースに取り付けられなくなります。

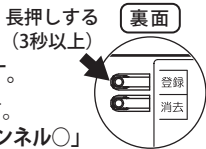
② 無線チャンネルの確認・変更

連動させるすべての警報器(親器・子器)を同じ無線チャンネルに設定してください。工場出荷時は「チャンネル1」になっています。

1. 本体裏面の『登録』ボタンを長押し

(3秒以上)して、チャンネル設定モードにします。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。しばらくして、表示灯が[橙]に変わり、「ピ チャンネル〇」と鳴動します。「〇」は、チャンネル番号です。



● 設定を変更する場合は、続けて『登録』ボタンを短押し(1秒未満)します。短押し(1秒未満)することにより「チャンネル〇」と鳴動し、無線チャンネルが切り替わります。(チャンネル番号は、「1→2→3→4→1…」の順に切り替わります。)

2. 無線チャンネルの確認・変更が終了したら、本体裏面の『登録』ボタンを長押し(3秒以上)して、チャンネル設定モードを終了します。

操作音が「ピピ」と鳴り、しばらくして「ピ チャンネル〇登録」と鳴り、表示灯が消灯します。

● 手順1から約1分間、操作しなかったときも、チャンネル設定モードは終了します。

③ 登録(グループの構成)・消去

登録する親器・子器は、取付ベースをはずしたままの状態でも裏返しにして並べてください。

1. 親器裏面の『登録』ボタンを短押し

(1秒未満)して、登録モードにします。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。

● 親器を登録モードにしてから、何も操作をしない状態が1分以上経過すると、親器に登録してある子器の台数を「〇台登録」と鳴動したあと、表示灯が消灯し、登録モードが終了します。

● 親器からエラー音「ビビビビ」が鳴り、登録モードにならない場合は、親器が【電池切れ】【機器異常】【通信処理中】のいずれかである可能性があります。

4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)を行い、(テスト結果)に応じて対処してください。

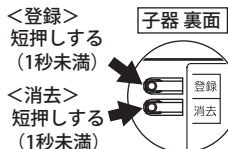
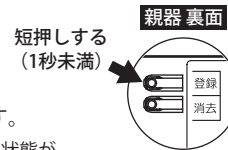
2. 登録する子器の『登録』ボタンを短押し

(1秒未満)して、グループに登録します。

下表に記載の成功したときの音声が鳴り

終わってから、次に登録したい子器の『登録』

ボタンを短押し(1秒未満)してください。



グループ登録済みの子器をグループからははずす場合は、はずしたい子器の『消去』ボタンを短押し(1秒未満)して、登録情報を消去します。下表に記載の成功したときの音声が鳴り終わってから、次に消去したい子器の『消去』ボタンを短押し(1秒未満)してください。



- 登録操作中に、誤って他のボタンを押さない。
- 登録や消去の操作は、成功の音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に進行。登録中にエラーになったり意図しない登録情報となる場合があります。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。しばらくすると、子器が状態を鳴動します。

| 状態 | 警報音(音声) | 表示灯 |
|-----|------------------------|-------------|
| 成功 | <登録> 〇番登録 <消去> 〇番消去 | 消灯 |
| 失敗 | ビビビビ | [赤]または[橙]点灯 |
| エラー | ビビビビビ | 消灯 |

- 「〇番」には、操作した子器の登録番号1~15が鳴動します。
- 登録の場合、鳴動するまで約5~30秒かかります。
- 失敗の場合、表示灯の色を確認して、下表に従い対処してください。

| 表示灯 | 状況と対処 |
|-------|---|
| [赤]点灯 | <p>【状況】親器が登録モードではない可能性があります。</p> <p>【対処】③登録(グループの構成)・消去のはじめから、操作をやり直してください。</p> <p>【状況】無線チャンネルの設定が異なっている可能性があります。</p> <p>【対処】②無線チャンネルの確認・変更で、親器と子器のチャンネル設定を確認してください。</p> <p>【状況】すでに親器に15台の子器が登録されている可能性があります。</p> <p>【対処】親器の登録モードを終了させて、子器の登録台数を確認してください。親器の登録モードは、親器の『登録』ボタンを短押し(1秒未満)して終了させるか、1分後に自動で終了するのを待ってください。</p> |
| [橙]点灯 | <p>【状況】登録作業に支障をきたす電波が存在する可能性があります。</p> <p>【対処】登録操作場所を変更するか、しばらく待ってから再度登録操作を行ってください。改善しない場合は、</p> <p>②無線チャンネルの確認・変更ですべての警報器を別のチャンネルに変更のうえ、</p> <p>③登録(グループの構成)・消去のはじめから、操作をやり直してください。</p> |

- エラーの場合、子器が電波異常である可能性があります。

以下の操作を行ってください。

- 1) 子器の電池コネクタを抜きます。
- 2) 本体表面の『警報停止/テスト』ボタンを長押し(約5秒)します。
- 3) 子器の電池コネクタを接続します。
- 4) 親器が登録モード中の状態で、登録の場合は子器裏面の『登録』ボタンを、消去の場合は『消去』ボタンを、再度短押し(1秒未満)します。

3. 登録・消去の作業が終了したら、親器裏面の『登録』ボタンを押して、登録モードを終了します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。

以下のとおり親器が鳴動し、表示灯が消灯します。

| 『登録』ボタン | 警報音(音声) | 鳴動内容 |
|-----------|----------|---------------------------|
| 短押し(1秒未満) | 〇台登録 | グループ登録されている子器の合計台数を鳴動 |
| 長押し(2秒以上) | ビ△番□番・登録 | グループ登録されているすべての子器の登録番号を鳴動 |

- 「△番」および「□番」には、登録されている子器の登録番号が鳴動します。

④ 登録後の確認(テスト)



確認(テスト)は、音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に進行。正常に確認(テスト)ができないおそれがあります。

すべての子器が正常にグループ登録できていることを確認します。

1台ずつすべての子器で手順1、2を行ってください。

1. 子器の『警報停止/テスト』ボタンを短押し

(1秒未満)します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。

正常に登録できていると、最大約20秒後に以下を鳴動します。

| 警報音(音声) | 表示灯 |
|----------------------------|---------|
| 〇番 正常です ピーヒューヒュー 火事です 火事です | [赤]連続点滅 |

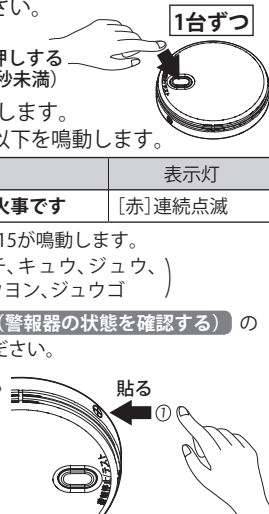
- 「〇番」には、テストした子器の登録番号1~15が鳴動します。
(イチ、ニ、サン、ヨン、ゴ、ロク、ナナ、ハチ、キュウ、ジュウ、ジュウイチ、ジュウニ、ジュウサン、ジュウヨン、ジュウゴ)

- 上記以外の結果の場合は、4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)の(テスト結果)を参照のうえ、対処してください。

2. 子器に登録番号表示シールを貼ります。

鳴動した登録番号と同じ登録番号表示シールを警報器表面のシール貼付位置(⊕)に貼り付けてください。

- 必要に応じて正面に貼り付けてください。



連動警報を確認したい場合は、

- 4.3 連動テスト(警報器の連動動作機能を確認する)を参照してください。

2.2 その他の消去方法



電波異常が発生している場合や、登録情報をすべて消去する場合以外は、2.1 基本的な登録・消去に従い消去作業を行う。親器と子器の登録情報に違いが生じるおそれがあります。

電波異常の警報器を消去するとき

消去作業をすることなく子器を撤去したなどで親器が電波異常警報を出している場合、親器の操作で対象の子器に関する登録情報を消去しグループからははずすことができます。

この操作は、親器⇄子器間で電波異常となり、2.1 基本的な登録・消去の③登録(グループの構成)・消去ができない場合に行ってください。

1. 親器裏面の『消去』ボタンを短押し(1秒未満)します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。短押しする以下のとおり親器が鳴動したあと表示灯が消灯し、(1秒未満)対象のすべての子器に関する登録情報を消去します。

警報音(音声) △番□番・消去

- 「△番」および「□番」には、消去された子器の登録番号が鳴動します。
- 対象の子器がない場合は、「ビビ 0台消去」と鳴動します。
- 対象の子器を消去したあと、正常な子器を登録すると、空き番号の小さい順に子器が登録されます。

登録情報をすべて消去するとき

すべての登録情報を消去したい場合に行ってください。



- 親器または子器の登録情報をすべて消去した場合、火災警報発生時に警報器が連動動作しません。2.1 基本的な登録・消去の③登録(グループの構成)・消去を参照し、改めて必ずすべての警報器をグループ登録してください。
- 親器の一括消去(手順1)のみを行った場合はすべての子器が、子器の個別消去(手順2)のみを行った場合は親器が、数日後にそれぞれ電波異常となります。必ず手順1、2ともに行ってください。

1. 親器裏面の『消去』ボタンを長押し(2秒以上)して、親器の登録情報を一括消去します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。
以下のとおり親器が鳴動したあと表示灯が消灯し、親器に登録されている子器すべての登録情報を消去します。



警報音(音声) **ピ 消去**

- 親器側で一括消去しても、子器側の登録情報(子器番号)は残っています。
- 子器を再登録する場合、未登録の子器は親器側の空き番号の小さい順に登録されます。すでに登録番号を持っている子器は、その番号が親器側で空いている場合はその番号で登録されます。
- 無線チャンネルの設定は、消去(変更)されません。

2. 子器裏面の『消去』ボタンを長押し(2秒以上)して、子器の登録情報を個別消去します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯します。
以下のとおり子器が鳴動したあと表示灯が消灯し、子器の登録情報を消去します。



警報音(音声) **ピ 消去**

- 操作途中でエラー音が「ピピピピ」と鳴った場合は、再度『消去』ボタンを長押し(2秒以上)してください。
- エラー音が「ピピピピピ」の場合、子器が電波異常である可能性があり、個別消去できません。以下の操作を行ってください。
 - 1) 子器の電池コネクタを抜きます。
 - 2) 本体表面の『警報停止/テスト』ボタンを長押し(約5秒)します。
 - 3) 子器の電池コネクタを接続します。
 - 4) 再度、子器裏面の『消去』ボタンを長押し(2秒以上)します。
- 必ずすべての子器で個別消去(手順2)を行ってください。

3 設置

次のような場所への取り付けをおすすめします。

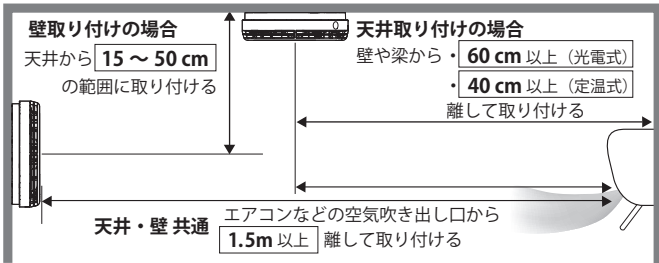
取付場所

煙式 寝室(居室など)、階段、廊下、台所 **熱式** 台所など

- 設置場所については、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

取付位置

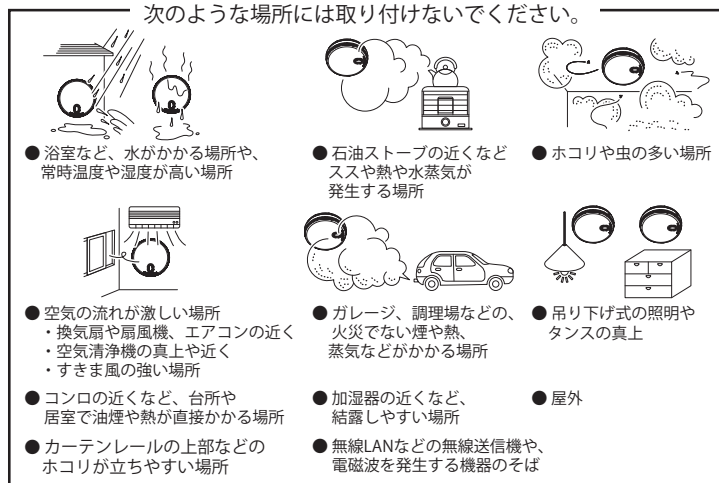
取付位置を守り、『警報停止/テスト』ボタン(引きひもがある場合は引きひも)が操作しやすい位置に取り付けてください。



上記を守ったうえで、照明器具から50cm程度離してください。また、なるべく部屋の中心に取り付けてください。



- 0～40℃の温度範囲内で結露しない場所に取り付ける。
- 警報器は必ず正しい取付場所に取り付ける。次のような場所に取り付けた場合、誤作動の原因および正常に火災を感知できないおそれがあります。



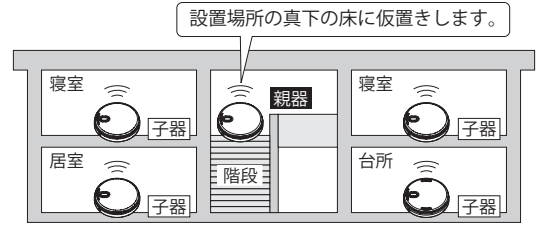
3.1 電波状態の確認(仮設置)

- 取り付ける前に、以下の方法で電波状態の確認を行う。電波状態を確認しないで取り付けた場合、設置位置の変更が必要となる場合があります。また、仮置き確認後に本設置した場合でも、家具などの位置関係により電波異常となることがあります。
- 操作は、音声^{ゼロ}が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実に。正常に確認ができないおそれがあります。

- 原則として、親器がすべての警報器の中心にくるように設置してください。
- 火災時に、連動先警報器は感知元警報器の登録番号を鳴動します。火元を確認するため、部屋ごとに設置した警報器の番号を覚えておくことをおすすめします。

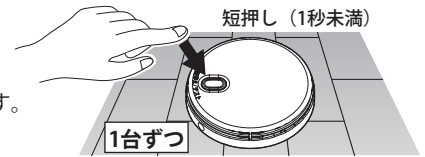
1. 警報器を仮置きします。

親器およびすべての子器を、設置予定場所の真下の床に仮置きします。



2. 子器の『警報停止/テスト』ボタンを短押し(1秒未満)します。

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯し、警報器の状態を鳴動します。



下表の音声を確認後、1台ずつすべての子器で手順2を繰り返し行い、親器との電波状態が良好であることを確認してください。

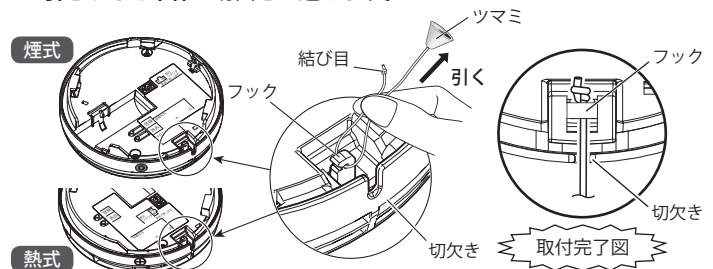
| 状態 | 警報音(音声) | 表示灯 |
|--------|-----------------------------|-----------------------------|
| 電波状態良好 | ○番 正常ですピーヒューヒュー 火事です | [赤]連続点滅 |
| 電波状態不良 | ○番 ピピピッ 電波異常です 0番 | [赤・橙・緑のいずれか] 2回点滅 (ピピピッと同期) |
| 親器に未登録 | キョウキョウ 99 正常ですピーヒューヒュー 火事です | [赤]連続点滅 |

- 「○番」には、テストした子器の登録番号1～15が鳴動します。
- 「○番」のあとに、約20秒間の無音状態が継続します。
- 良好以外の場合は、4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)の(テスト結果)を参照のうえ、適切に対処してください。

引きひもの取り付け(引きひもを使用する場合)

- 禁止: 引きひもを強く引かない。引きひもがはずれる、または設置状態によっては本体が落下するおそれがあります。
- 注意: 引きひもを取り付けるとき、フックが引かれて警報音やテスト音声^{ゼロ}が鳴ることがあるので注意する。
- 必ず守る: 引きひもは本体の切欠きに確実に通す。ボタンの操作ができなくなるおそれがあります。

1. 引きひもの先端を伸ばし結びにします。
2. 引きひもをリング状に持ちます。
3. 引きひもをフックに引っ掛けます。
4. ツマミを引き、結び目をフックに固定します。
5. 引きひもを本体の切欠きに通します。



引きひもを取り付けたあとは、数回引きひもを引き、正常に操作できることを必ず確認してください。引きひもを引くことで『警報停止/テスト』ボタンと同じ操作ができます。

3.2 警報器の設置

警報器は、天井または壁に取り付けます。

※付属の取付ネジについて：

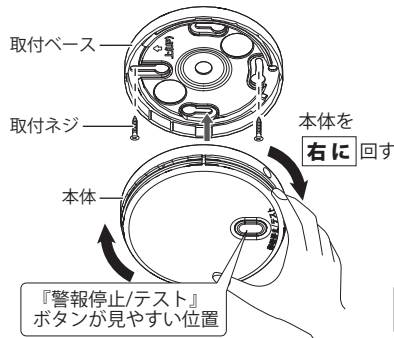
工事店様以外は「一般用 (25mm)」を使用してください。

| | |
|------|--|
| 禁止 | <ul style="list-style-type: none"> ● 取り付けるとき、軍手などの繊維状のホコリが発生する手袋は使用しない。 ● 煙感知部にホコリが入り、誤作動の原因になります。 ● 付属の取付ネジ以外で取り付けない。 ● 本体が落下して破損したり、ケガをするおそれがあります。 |
| 注意 | <p>取り付け時に発生するホコリなどが、煙感知部に入らないように注意する。</p> <p>煙感知部にホコリが入ると、誤作動の原因および正常に火災を感知できないおそれがあります。ホコリが入った場合、掃除機でホコリを吸い取ってください。</p> |
| 必ず守る | <p>引きひもを取り付けている場合は、引きひもを本体の切欠きに確実に通す。</p> <p>ボタンの操作ができなくなるおそれがあります。</p> |

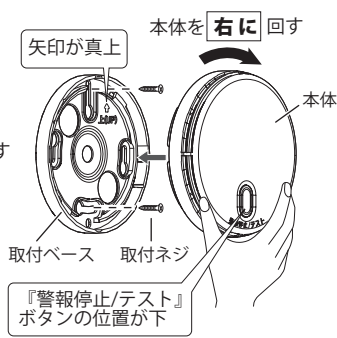
天井・壁(ねじ止め)に取り付けるとき

1. 取り付け面(天井・壁)の充分に強度のある補強材などが通っている場所に、取付ネジで取付ベースを固定します。
2. 本体を取付ベースに合わせ、止まるまで右に回します。

【天井に取り付ける場合】

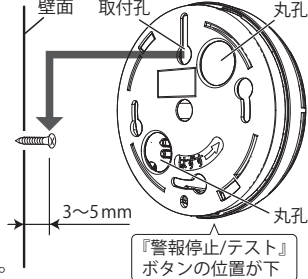
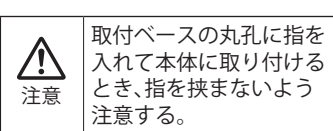


【壁に取り付ける場合】



壁に掛けて取り付けるとき

1. 本体に取付ベースを取り付けます。



2. 取付ネジを壁の途中まで垂直にねじ込みます。

ネジ頭と壁の間が3～5mmの範囲になるまでねじ込んでください。

3. ネジ頭に、取付ベースの取付孔を引っ掛けます。

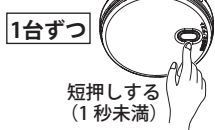
3.3 設置後の確認

| | |
|------|---|
| 必ず守る | <ul style="list-style-type: none"> ● 取り付けたあと必ずテストを行う。 ● 警報器に異常があった場合、火災時に正常に作動しません。 ● 操作は、音声が鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実にを行う。 ● 正常に確認ができないおそれがあります。 |
|------|---|

単独テスト

1台ずつすべての警報器を以下の方法でテストし、各警報器の登録番号および機能が正常であることを確認してください。

1. 警報器の『警報停止/テスト』ボタンを短押し(1秒未満)します。(引きひもがある場合は引きひもでも操作できます。)



操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯してテストを開始します。

| 状態 | 警報音(音声) | 表示灯 |
|----|-------------------------|---------|
| 正常 | ○番 正常ですピーヒューヒュー火事です火事です | [赤]連続点滅 |

- 正常の場合、「○番」には、テストした警報器の登録番号(親器は0、子器は1～15)が鳴動します。子器では、登録番号のあとに、約20秒間の無音状態が継続します。
- 正常以外の場合は、4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)の「テスト結果」を参照のうえ、対処してください。

連動テスト(連動警報を確認したい場合)

4.3 連動テスト(警報器の連動動作機能を確認する)を参照してください。

設置しない子器の登録情報消去(設置しない子器がある場合)

登録した子器を設置しない場合は、必ず登録情報を消去してください。

登録情報の消去は、2.1 基本的な登録・消去 の ③ 登録(グループの構成)・消去を参照してください。

| | |
|----|---|
| 注意 | <p>登録情報を消去しないで子器を撤去した場合、数日後に親器が電波異常となります。</p> <p>親器から電波異常の子器を消去する場合は、2.2 その他の消去方法 の 電波異常の警報器を消去するときを参照してください。</p> |
|----|---|

4 定期点検(お手入れとテスト)

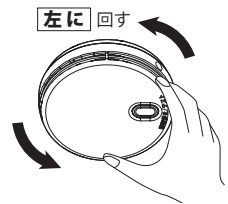
正常に動作することを確認するため、定期点検を必ず行ってください。

4.1 お手入れ(外観を確認する)

12ヶ月に1回程度、警報器の掃除を行ってください。

1. 本体を設置面に軽く押しつけながら左に回して取りはずします。

取付ベースは設置面に残してください。



- 壁に掛けて使用されている場合は、取付ベースごとはずしてください。

| | |
|----|---|
| 禁止 | <p>熱感知部に触れない。</p> <p>故障して火災を感知できなくなるおそれがあります。</p> |
| 注意 | <p>煙流入口、熱流入口を強く持つてはささない。</p> <p>破損するおそれがあります。</p> |

2. 電池コネクタを機器裏面に対し垂直の方向に引き、取りはずしてください。

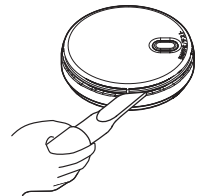
3. ホコリと汚れを取り除きます。

ホコリなどの異物を取るとき

本体および警報器内部にホコリがたまり積っていたら、掃除機の細いノズルを使用して、全周および右図位置付近を30秒ほどしっかりと吸い取ってください。

その際、煙流入口および熱流入口に掃除機の先を強く押しつけないようにしてください。

熱感知部に掃除機の先があたらないよう注意してください。



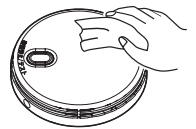
| | |
|------|---|
| 必ず守る | <p>定期的にはホコリを取り除く。</p> <p>正常に煙の感知ができません。</p> |
|------|---|

汚れを拭き取るとき

本体が汚れたら、布を水または中性洗剤に浸し、充分に絞ってから拭き取ってください。

その際、煙流入口および熱流入口に強い力を加えないでください。

熱感知部に触れないよう注意してください。

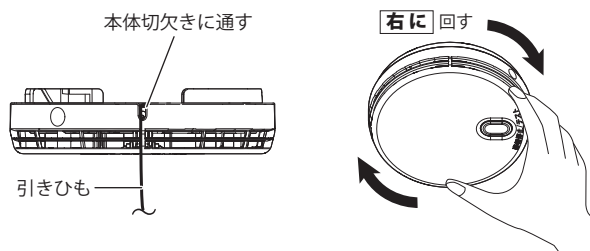


| | |
|------|---|
| 分解禁止 | <p>分解の禁止</p> <p>機器内部は精密に調整されていますので分解しないでください。</p> <p>正常に火災を感知できなくなるおそれがあります。</p> |
| 禁止 | <ul style="list-style-type: none"> ● 水洗いの禁止 ● 内部に水が入らないよう気をつけてください。正常に火災を感知できなくなるおそれがあります。 ● 薬品の使用禁止 ● ペンジン・シンナーやアルコールなどの化学薬品で拭き取らないでください。樹脂が変形したり劣化して割れることがあります。 |
| 注意 | <p>拭き取り時に発生するホコリなどが、警報器内部に入らないように注意する。</p> <p>煙感知部にホコリが入ると、誤作動の原因および正常に火災を警報できないおそれがあります。ホコリが入った場合は掃除機で吸い取ってください。</p> |

4. 本体をもとに戻します。

以下のことを確認してから、本体をもとに戻してください。

- 本体表面が乾いている
- 電池コネクタが奥まで確実に差し込まれている
- 煙・熱流入口および警報器内部、熱感知部にホコリやクモの巣などが無い
- もとの取り付け場所(部屋)と同じ場所である(異なる場所に取り付けると、連動動作しないことがあります)
- 引きひもがある場合、ひもが本体切欠きに確実に通っている



取り付けたあとは、必ず **4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)** を参照し、単独テストをしてください。

4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)

推奨点検頻度 1ヶ月に1回、または3日以上留守にしたとき

必ず守る 操作は、音声で鳴り終わるのを待って、1台ずつ確実にを行う。正常に確認ができないおそれがあります。

警報器の状態を確認します。

1台ずつすべての警報器をテストしてください。

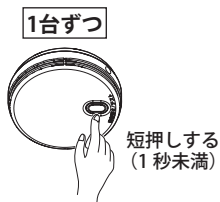
テスト結果が正常以外の場合は **【対処方法】** に従って対処してください。

1. 『警報停止/テスト』ボタンを短押し

(1秒未満) します。

(引きひもがある場合は引きひもでも操作できます。)

操作音が「ピピ」と鳴り、表示灯[緑]が点灯してテストを開始します。



テスト結果

| 結果 | 警報音(音声) | 表示灯 | 対処No. |
|---------|------------------------------|----------------------------|----------|
| 正常 | ○番 正常です ビー ヒュー ヒュー 火事です 火事です | [赤]連続点滅 | — |
| 電池切れ | ○番 ビボッ 電池切れです | [赤] 1回点滅 (ビボッと同期) | 1 |
| 機器異常 | ○番 ピッピッピ 異常です | [赤] 3回点滅 (ピッピッピと同期) | 2 |
| 未登録 | 親器 上記の「○番」部分を「00」と鳴動 | 上記いずれか | 3 |
| | 子器 上記の「○番」部分を「99」と鳴動 | | 4 |
| 電波異常 | 親器 0番 ビッピッ 電波異常です △番 ... | [赤] 2回点滅 (ビッピと同期) | 5 |
| | 子器 △番 ビッピッ 電波異常です 0番 | [赤・橙・緑のいずれか] 2回点滅 (ビッピと同期) | 6 |
| 通信処理中など | ビビビビ | 消灯 | 7 |
| 故障など | 無音 | 無灯 | 8 |

- 「○番」には、テストした警報器の登録番号(親器は0、子器は1~15)が鳴動します。
- 「△番」には、電波異常中の子器の登録番号(1~15)が鳴動します。
- 子器の場合、「○番」および「△番」のあとに、最大約20秒間の無音状態が継続します。

対処方法

| 対処No. | 対処方法 |
|----------|--|
| 1 | 電池電圧が低下して電池の寿命が近づいています。販売店にご相談のうえ、すみやかに新しい警報器または電池と交換してください。 |
| 2 | 機器異常により火災を感知できません。すみやかに新しい警報器に交換してください。 |
| 3 | 子器が未登録の親器です。子器を登録してください。 ● 登録の方法は、 【2登録・消去】 を参照ください。 |
| 4 | 親器に未登録の子器です。親器に登録してください。 ● 登録の方法は、 【2登録・消去】 を参照ください。 |

| 対処No. | 対処方法 |
|----------|--|
| 5 | 子器との通信ができていません。該当する子器を単独テストしてください。結果が正常 → そのまま使用してください。結果が電波異常 → 【対処No.6】 に従ってください。 |
| 6 | 親器との通信ができないか、弱電波です。表示灯の色を確認して適切に対処してください。 [赤]:電波が届かないか、受信できません。 1) 以下を確認します。 ● 親器が監視状態であること ● 無線チャンネル設定が正しいこと 2) 周りの家電品やOA機器を移動させます。 3) 再度単独テストをします。 改善しない場合は、すべての無線チャンネル設定を変更してください。 [橙]:周りに連動に支障をきたす電波が存在しています。 1) しばらくしてから再度単独テストをします。 頻繁に起きる場合は、すべての無線チャンネル設定を変更してください。 [緑]:電波が弱く連動しにくい状態です。 1) 該当の警報器を取りはずします。 2) 警報器を電波の届きやすい位置に移動させ、取り付けます。 3) 再度単独テストをします。 ● 無線チャンネルの設定は 【2.1 基本的な登録・消去】 の 【2 無線チャンネルの確認・変更】 を、取付方法は 【3.2 警報器の設置】 を参照してください。 |
| 7 | 単独テストが正常にできませんでした。しばらくしてから再度単独テストをしてください。 |
| 8 | 電池がはずれているか、故障している可能性があります。電池コネクタがはずれていたり、ゆるんでいる場合はコネクタを奥まで確実に差し込んでください。コネクタ部に問題がない場合は、販売店または「お客様ご相談窓口」にご相談のうえ、すみやかに新しい警報器に交換してください。 |

4.3 連動テスト(警報器の連動動作機能を確認する)

推奨点検頻度 12ヶ月に1回

警報器が連動して動作するかを確認します。

注意

- 連動テストはすべての警報器が火災警報を鳴動します。連動テストをするときは、周囲の迷惑にならないよう夜間を避けてください。
- 連動テストは連動機能のみを確認しています。連動テストは連動を確認できますが、警報器の状態(電池切れ・機器異常)などを確認することはできません。必ず定期的に単独テストを行ってください。いざというとき火災を感知できないおそれがあります。

1. 連動登録している警報器のいずれか1台の『警報停止/テスト』ボタンを長押し

(2秒以上) します。

(引きひもがある場合は引きひもでも操作できます。)

操作音が「ピピ ピ」と鳴り、テストを開始します。



【正常の場合】

| | 警報音(音声) | 表示灯 |
|-----|----------------------------|---------|
| 操作元 | ビーヒューヒュー 火事です 火事です(3回繰り返し) | [赤]連続点滅 |
| 連動先 | ビーヒューヒュー ○番 火事です(3回繰り返し) | [橙]連続点滅 |

- 操作元の表示灯[緑]が点灯し、約4~20秒後*に連動登録したすべての警報器が火災警報を鳴動します。
※ 周囲の環境によっては延びる場合があります。
- 「○番」には、操作元警報器の登録番号0~15を鳴動します。
- 電池切れ警報や機器異常警報時でも、連動確認ができます。
- 電波異常警報を発している警報器でも、他の警報器と連動する場合があります。

【操作元警報器が未登録の場合】

| | 警報音(音声) | 表示灯 |
|-----|----------------------------------|---------|
| 操作元 | 親器の場合: 00 ビビビビ 子器の場合: 99 ビビビビ | 消灯 |
| 連動先 | 無音(無反応) | 無灯(無反応) |

- 操作元が未登録機器である場合は、連動テストができません。
- **【2登録・消去】** を参照のうえ、登録作業をしてください。

【通信処理中などの場合】

| | 警報音(音声) | 表示灯 |
|-----|---------|---------|
| 操作元 | ビビビビ | 消灯 |
| 連動先 | 無音(無反応) | 無灯(無反応) |

- テストが正常にできません。しばらくしてから再度連動テストをしてください。

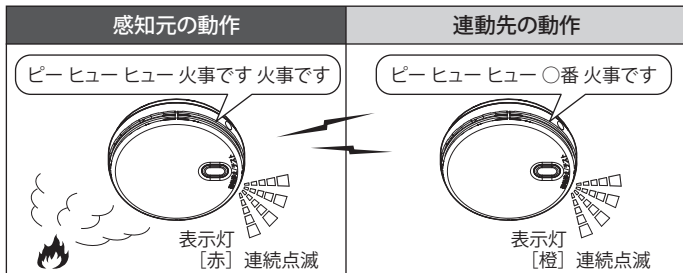
5 警報について

| 警報項目 | 警報音(音声) | 表示灯 |
|------|-------------------------|----------------------|
| 火災 | 感知元: ビーヒューヒュー 火事です 火事です | [赤] 連続点滅 |
| | 連動先: ビーヒューヒュー ○番 火事です | [橙] 連続点滅 |
| 電波異常 | ピッピッ 電波異常です (30分ごとに2回) | [橙] 2回点滅 (1分ごと) |
| | ピッピッ (1分ごと) | [橙] 2回点滅 (1分ごと) |
| 電池切れ | ピポッ 電池切れです (30分ごとに2回) | [赤] (1+4) 回点滅 (1分ごと) |
| 機器異常 | ピッピッピッ 異常です (30分ごとに2回) | [赤] 3回点滅 (1分ごと) |
| | ピッピッピッ (1分ごと) | [赤] 3回点滅 (1分ごと) |

● 「○番」には、火災を感知した感知元警報器の登録番号 0 ~ 15 を鳴動します。

5.1 火災警報「ビーヒューヒュー 火事です 火事です」

煙または熱を感知すると、警報音と表示灯の連続点滅でお知らせします。



- 連動先は動作するまで約4～20秒かかります。周囲の環境によっては延びる場合があります。
- 「○番」には、火災を感知した感知元警報器の登録番号 0 ~ 15 を鳴動します。
- 複数の警報器が火災を感知している場合、連動先は先に火災を感知した警報器の登録番号を鳴動します。

火災のとき

感知元(火元)を確認し、119番へ通報するなど適切な対処をしてください。警報を発してから約5分後に煙または熱がなくなると、自動的に警報は停止します。

火災でないとき

火災以外で警報動作をする場合、**6 故障かな?と思ったら** を参照のうえ、適切に対処してください。

火災警報音を停止するには

【感知元で停止したとき】

『警報停止/テスト』ボタンを押す(引きひもがある場合は引きひもを引く)と約5分間すべての警報器の警報音が停止します。(連動先はすぐに停止しません。)

- 警報音停止中は感知元警報器の表示灯[赤]がゆっくり点滅し続けます。
- 約5分経過後も感知元が煙または熱を感知している場合は、すべての警報器が再鳴動します。
- 約5分間の警報音停止中に連動先のいずれかの警報器が煙または熱を感知した場合は、感知元は感知元動作、連動先は連動先動作で再鳴動します。

【連動先で停止したとき】

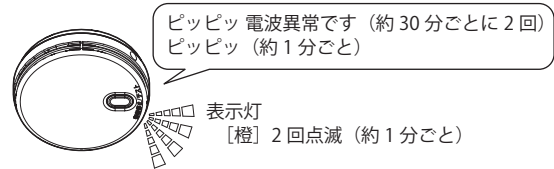
『警報停止/テスト』ボタンを押す(引きひもがある場合は引きひもを引く)と約5分間連動先すべての警報器の警報音が停止します。

- 感知元の火災警報音は停止できません。
- 約5分経過後も感知元が火災警報動作を継続している場合は、再度連動先すべてが連動警報音を再鳴動します。
- 連動先の火災警報音停止中に、連動先のいずれかの警報器が煙または熱を感知した場合は、感知元は感知元動作、連動先は連動先動作で再鳴動します。

| | | |
|-----------|---|--|
| <p>注意</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 感知部に“煙”または“熱”が残っている場合は約5分後に再び火災警報音が鳴動します。部屋の換気などを行い、要因を取り除くことにより約5分後に火災警報は自動的に止まります。 ● くん煙式または加熱蒸散式殺虫剤を使用する場合(煙式) 煙式の警報器を設置した部屋や近くで、くん煙式または加熱蒸散式の殺虫剤を使用すると作動(誤作動)する場合があります。そのため、本体部を取りはずして殺虫剤がかからない場所に一時的に退避してください。 使用後、換気をして必ず元の状態に戻し、テストを行ってください。(4 定期点検(お手入れとテスト) 参照) | |
| <p>禁止</p> | <p>火災以外で警報が鳴っても、警報器本体や電池をはずさない。その後の監視ができなくなり、火災を感知してお知らせできません。</p> | |

5.2 電波異常警報「ピッピッ 電波異常です」

親器⇄子器間で定期的に無線通信をしています。親器⇄子器間の電波状態に異常があると、数日後に警報音と表示灯の連続点滅でお知らせします。



対処方法

1. 親器の『警報停止/テスト』ボタンを **短押し**(1秒未満) します。
「**○番** ピッピッ 電波異常です △番…」と鳴ります。
電波異常の子器の登録番号(△番)を確認します。
 2. 電波異常の子器(△番)の『警報停止/テスト』ボタンを **短押し**(1秒未満) します。
表示灯の色に応じて対処してください。
(**4.2 単独テスト(警報器の状態を確認する)** の **【対処方法】** **対処No. 6** 参照)
- 対処後は該当する子器を単独テストし、正常に動作することを確認してください。
 - 電波異常警報は連動動作しません。

警報音を停止するには

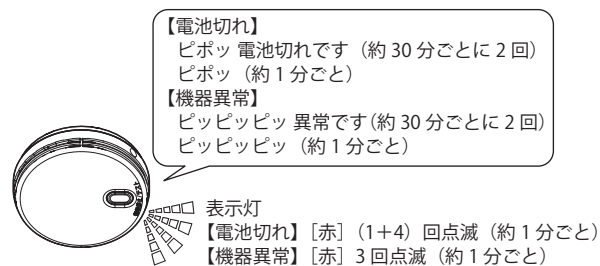
『警報停止/テスト』ボタンを押します。(引きひもがある場合は引きひもでも操作できます。)
音声で電波異常をお知らせし、約24時間警報音が停止します。

- 警報音停止中は、表示灯[橙]が約10秒ごとに2回点滅します。
- 電波異常が継続中の場合は、警報音停止操作をするごとに単独テストの後、音声で電波異常をお知らせし、最後の操作から約24時間警報音を停止します。

| | |
|-----------|---|
| <p>禁止</p> | <p>電波異常のまま放置しない。 火災時に連動鳴動しないおそれがあります。</p> |
|-----------|---|

5.3 電池切れ警報「ピポッ 電池切れです」 機器異常警報「ピッピッピッ 異常です」

専用リチウム電池の寿命が近づいた場合(電池切れ)、警報器の感度が劣化し正常に火災を感知できなくなった場合(機器異常)は、警報音と表示灯でお知らせします。



対処方法

【電池切れ】の場合は、販売店にご相談のうえ、すみやかに新しい警報器または電池と交換してください。
【機器異常】の場合は、すみやかに新しい警報器と交換してください。

- 設置後10年を経過している場合や著しく汚れている場合は、警報器を交換してください。
- 子器を交換する場合は、親器の子器情報を消去し、新しい子器を親器に登録してください。
- 親器を交換する場合は、設置しているすべての子器を新しい親器に登録してください。
- 専用リチウム電池は市販品ではありません。
- 電池を交換した場合は、正常に動作するか、単独テストをしてください。
- 電池切れ警報および機器異常警報は連動動作しません。
- 機器異常が発生すると、正常に火災を感知できません。

警報音を停止するには

『警報停止/テスト』ボタンを押します。(引きひもがある場合は引きひもでも操作できます。)
音声で電池切れまたは機器異常をお知らせし、約24時間警報音が停止します。

- 【電池切れ】の場合は、警報音停止中は表示灯[赤]が約10秒ごとに1回点滅します。
- 【機器異常】の場合は、警報音停止中は表示灯[赤]が約10秒ごとに3回点滅します。

6 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらときは、下表の対処をしてください。
 下表のとおりに対処をしても異常がある場合は、お買い上げの販売店に連絡するか、「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。

| 症状 | 原因 | 対処 |
|-----------------------------------|--|---|
| 火災ではないのに火災警報動作をする。 | 煙式 次のような要因はありませんか？ <ul style="list-style-type: none"> 調理の煙や湯気 ホコリ 殺虫剤を使用した（くん煙式または加熱蒸散式など） 線香や蚊取り線香などの煙を大量に発生させた タバコの煙や、スプレー式殺虫剤、化粧スプレーを直接吹きかけた | 警報音を停止し、室内を換気してください。 |
| | 煙式 煙感知部に煙やホコリなどの要因が滞留していませんか？ | 警報音を停止し、煙流入口および警報器内部の煙をうちわなどであおぐか、ホコリを掃除機の細いノズルで吸って取り除いてください。 |
| | 熱式 次のような熱が熱式警報器にあたっていますか？ <ul style="list-style-type: none"> 調理の熱 ストーブやコンロの直上など、60℃以上の熱 直射日光などの熱 | 警報音を停止し、警報器周辺の熱が下がるまでお待ちください。 |
| | 熱式 熱感知部付近に熱が滞留していませんか？ | 警報音を停止し、熱感知部の熱をうちわなどであおぎ要因を取り除いてください。 |
| 火災警報動作をしない。 | 専用リチウム電池のコネクタがはずれていたり、奥まで差し込まれていない状態ではありませんか？ | コネクタを奥まで差し込んでください。 |
| | 専用リチウム電池の寿命ではありませんか？ 電池切れ警報が鳴っていませんか？ | 新しい警報器または電池と交換してください。 |
| | 火災警報音の停止操作をしませんでしたか？ 表示灯[赤]がゆっくり点滅していませんか？ | 火災警報音の停止操作後約5分間は、煙または熱を感知しても警報音は鳴動しません。 ボタンまたは引きひもを操作すると「ビビ」と鳴ります。 |
| | 煙式 煙流入口および警報器内部にホコリなどが付着していませんか？ | ホコリなどの付着物を掃除機の細いノズルで吸い取ってください。 |
| 約1分間隔で「ビポッ」と鳴り、表示灯[赤]が(1+4)回点滅する。 | 【電池切れ】 電池電圧が低下して電池の寿命が近づいています。 | 新しい警報器または電池と交換してください。 |
| 約10秒間隔で表示灯[赤]が1回点滅する。 | 【電池切れ】 の警報音を停止中です。 | |
| 約1分間隔で「ビッピッ」と鳴り、表示灯[赤]が3回点滅する。 | 【機器異常】 機器異常により火災を正常に感知できません。 | 新しい警報器と交換してください。 |
| 約10秒間隔で表示灯[赤]が3回点滅する。 | 【機器異常】 の警報音を停止中です。 | |
| 約1分間隔で「ビッピッ」と鳴り、表示灯[橙]が2回点滅する。 | 【電波異常】 電波異常により通信が正常にできません。 | <親器の場合> 単独テストをしてください。電波異常子器の登録番号を鳴動します。該当の子器で単独テストをしてください。 |
| 約10秒間隔で表示灯[橙]が2回点滅する。 | 【電波異常】 の警報音を停止中です。 | <子器の場合> 単独テストをしてください。表示灯が[赤]、[橙]、または[緑]で2回点滅するので、状態にあわせて対処してください。 |
| | 4.2 単独テスト (警報器の状態を確認する) の 対処方法 対処No. 6 参照 | |

| 症状 | 原因 | 対処 |
|-------------------------|---|---|
| テストすると「ビビ」としか鳴らない。 | 火災警報音を停止中です。表示灯[赤]がゆっくり点滅していませんか？ | 約5分経過後、再度テストしてください。 |
| テストしても何も音が鳴らない。 | 専用リチウム電池のコネクタがはずれていたり、奥まで差し込まれていない状態ではありませんか？ 専用リチウム電池の寿命ではありませんか？ 電池切れ警報が鳴っていませんか？ | コネクタを奥まで差し込んでください。 新しい警報器または電池と交換してください。 |
| 親器・子器をテストすると「ビビビ」と鳴動する。 | 内部処理中のため、テストが起動できませんでした。 | しばらくしてから再度テストをしてください。 |
| 親器をテストすると「00～」と鳴動する。 | 子器が未登録の親器です。 | 子器を登録してください。 (2 登録・消去 を参照) |
| 子器をテストすると「99～」と鳴動する。 | 親器に未登録の子器です。 | 親器に登録してください。 (2 登録・消去 を参照) |
| 上記以外の動作 | 故障のおそれがあります。 | お買い上げの販売店に連絡するか、「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。 |

7 仕様

| 型名 | FSKJ226-M 親器 | FSKJ226-C(-J) 子器 | FSLJ016-C 子器 |
|---------------|--|---------------------|----------------------------------|
| 種別 | 光電式住宅用防災警報器 | | 定温式住宅用防災警報器 |
| 型式 | 電池方式、2種(DC3V、400mA)、無線式、連動型、自動試験機能付 | | 電池方式(DC3V、400mA)、無線式、連動型、自動試験機能付 |
| 国家検定型式番号 | 住警第2019～5号 | 住警第2019～6号 | 住警第2019～7号 |
| 認証番号 | 001-A14024 | | 001-A14023 |
| 電源 | 専用リチウム電池(公称電圧:DC3V) CR17450E-N-CN10 | | |
| 電池寿命 | 約10年*1(機器交換の目安) | | |
| 火災警報音量 | 1mにて70dB以上(検定規格) | | |
| 使用周波数 | CH1:426.7125MHz(出荷時設定) CH2:426.7375MHz CH3:426.8125MHz CH4:426.8375MHz | | |
| 送信出力 | 10mW | | |
| 電波到達距離 | 約100m*2(親器⇄子器間) | | |
| 連動台数 | 最大16台*3(親器:1台+子器:15台) | | |
| 連動可能機種 | 無線式連動型住宅用火災警報器 FSKJ226/FSLJ016 シリーズ FSKJ223/FSLJ013 シリーズ FSKJ218(A)/FSLJ008(A) シリーズ | | |
| 外形寸法(取付ベース含む) | 約φ99mm×約25.6mm | | |
| 質量(電池含む) | 約160g | 約150g | |
| 主材 | 難燃性ABS樹脂または難燃性PC系樹脂 | | 難燃性PC系樹脂 |
| 色 | ナチュラルホワイト(-J:ライトブラウン) | | |
| 使用温度範囲 | 0～40℃(結露しないこと) | | |
| 取付場所 | 天井・壁兼用 | | |

- *1 電池寿命は、使用温度や電波環境などの外部環境や使用条件によって短くなる場合があります。
- *2 電波到達距離は、障害物のない場所での水平見通し距離が約100mです。使用場所の環境や住宅の構造・建材などにより電波到達距離は短くなります。
- *3 必ず親器が1台必要です。親器を2台以上設置することはできません。

8 廃棄について

- 警報器や電池を廃棄する場合は、分解したり加圧変形させず、市町村により定められたルールに従って廃棄してください。(付属の電池は水銀を含みません。)
- 電池を廃棄する場合は、電池の保護フィルムをはがさず、コネクタ部分に絶縁性のあるテープなどを巻いてください。また、金属片など導電性のものと一緒に廃棄しないでください。絶縁状態にせず廃棄すると電池がショートし、発火、破裂の原因になります。